

## [レポート]

## 鹿瀬フィールドワーク (旧昭和電工 (株)) 鹿瀬工場の光と影を学ぶプログラム あがのがわ環境学舎



激しい雨が降る中、バスにのり、資料館から阿賀野川の上流部、鹿瀬地区に向かいます。時折、道路と並行する阿賀野川は大雨の影響で茶色く濁り、水かさも増えています。

1時間半ほどかけて、阿賀町文化福祉会館に到着。ここからは、あがのがわ環境学舎の山崎陽さんの案内で、新潟水俣病の原因企業、昭和電工鹿瀬工場があった鹿瀬周辺のフィールドワークです。

はじめに、山崎さんから、新潟水俣病と鹿瀬工場の歴史と今について説明を受け、再びバスに乗り、旧鹿瀬工場（現在の新潟昭和(株)）の周辺まで移動。かつては映画館やプールがあり、現在は駐車場やグラウンドになっている場所にハーモニカ長屋と呼ばれる社宅もあったことなど、とても栄えた企業城下町だったことの説明がありました。もともと鹿瀬工場は、1928（昭和3）年に完成した鹿瀬発電所の余剰電力を活用するために、肥料工場としてはじまりました。その鹿瀬発電所を車内から眺めます。

雨が少し小降りになり、旧鹿瀬工場の敷地が見える高台や、阿賀野川に面した排水口が残る場所で下車し見学。そして、いよいよ、現在の新潟昭和(株)の内部の見学です。

1927（昭和4）年に建てられた木造の雰囲気のある建物の2階の1室に通されます。部屋の壁際には、旧鹿瀬工場の全景を描いた絵や、公害の発生を含め鹿瀬工場の歴史などを解説したパネル、新潟昭和の現在の主力製品である排水管などの展示物があります。



「ご安全に」と、新潟昭和の金木社長から最初に挨拶がありました。「ご安全に？」と参加者はとまどっています。続いて挨拶のあった昭和電工本社の藤上さんから「『ご安全に』は、一日中使える『こんにちは』のようなものです。製造メーカーなので安全第一なんです」と説明がありました。参加者は納得した様子で、その後、しばらく「ご安全に」の挨拶が参加者の中で流行ります。

「昭和肥料の時代から90年の歴史があり、その中で水俣病が発生したことへの深い反省のもとに、排水処理などに取り組んできたので、ぜひ見ていただきたい」と挨拶があり、新潟昭和の総務部の佐藤さんから会社の紹介、鈴木さんから排水の処理や監視状況について、もう一人の佐藤さんからは歴史について説明いただきました。



その後、全員、ヘルメットを受け取り、構内の見学へ向かいます。排水が貯められている場所で、どのように処理が行われているか説明があり、自動通報の装置も見せてもらいました。何かあると自動的に通報される仕組みで、呼び出しから5分以内に担当者が工場に来る体制になっています。24時間、工場が無人になることはないそうです。

時折、雨が降る中、じっくりと説明をうけ、再び、参加者はバスに乗り阿賀町文化福祉会館へ戻りました。午後は、昭和電工本社の方のお話を伺います（記録は次頁以降参照）。

その前に、「豪華な粗食弁当」と呼ばれる、地元・阿賀町の食材にこだわった、おいしいお弁当をいただき、参加者は、あわただしくも午後に備えていました。

（報告：白神加奈子）